

先人の足跡を汚さぬよう

奈良公民館 小林熊二

奈良地区は、大変古くから開けたところと伝えられている。

それは、六世紀頃造られたといわれる横塚山古墳がこのことを物語っており、また時を同じくして奈良神社が創建されている。この御祭神は「奈良別命」で、命のことは国造本記（慶雲二年事跡）及び検古記（和銅四年事跡）に詳しく述べられている。しかし、古墳の被埋葬者と御祭神の関係は解っていない。

時代を少し下ると、熊谷次郎直実とともに奈良三郎高長が活躍しており、江戸時代には吉田市右衛門宗敬を筆頭に五代に亘る社会貢献の事跡があり、最近では経団連会長や日本万国博覧会会長を務めた石坂泰三氏を輩出し、さらに文芸評論で秀才振りを発揮され、後に衆議院議員を務められた石坂養平氏など多くの偉人に恵まれている。

いつの頃からか、近郷近在から「奈良道心」と、奈良地区の人々を尊敬する渾名までつけていただいた地区である。

現在に生きる私達は、この様に素晴らしい歴史と輝かしい伝統を受け継ぎ大いに誇りに思い、かつ先人の足跡を汚さないよう大きな責任を感じるところである。

奈良公民館は、活動の柱を地域のもつ篤実生、温厚性、そして奉仕感をより助長することとするが、新住民や戦後の教育を受けた者とのずれもあり、求められるより良き日本人像を目指して頑張っている。



吉田市右衛門宗敬

(熊谷市公協だより 第32号 平成12年より)